

心理学的な理論と支援(臨床心理学)	単位数	履修方法(授業形態)	配当学年
	4単位	R	1・2年
	担当教員	武村 尊生	

■授業のテーマ

力動的心理療法の過程とその背景となる理論を理解する

■授業の目的

心理療法の中の一つである「力動的心理療法」に関する知識、技法を習得する。
「力動的心理療法」の知識、技法の習得に関する過程で各種の心理療法の共通点についても習得する。
心理療法の基礎的素養と心理療法に関する専門的知識・技法及び倫理を習得する。
福祉の対象である人々に広義の心理療法的アプローチができるよう知識と実践力を習得する。

■授業の到達目標

- ①心理療法の中で、「力動的心理療法」について学び、他者に自分の言葉で説明することができる。
- ②心理療法における「見立て」について学び、それを説明することができる。
- ③心理療法の「過程」について学び、心理学的支援として必要な場面で、実際に活用することができるようになる。

■授業の概要

心理学的支援法における心理療法の種類は、多種多様です。ここでは心理療法の一つである「力動的」立場に立つ心理療法を取り上げます。力動的心理療法としては、フロイト派の「精神分析」と、ユング派の「分析心理学」があります。そしてその理論を背景にして、「箱庭療法」「家族療法」「集団精神療法」「芸術療法」などが発展しています。実践するためにはこれらの力動的心理療法の特徴は何かを学修する必要があります。

次に、力動的心理療法は、具体的にはどのような心理療法を行うのか、事例を通して検討していきます。心理療法の過程には「見立て」と「面接過程」が重要なテーマとなります。ここでは理論を説明した書籍を読んで理解する一方で、事例を取り上げて「見立て」と「面接過程」の学修をしていきます。

尚、レポートは参考文献などの「要約」ではなく、自分なりに「要約」したものを参照しつつレポート課題について考察し、論述してください。

■研究の視点

- ①力動的心理療法の理解およびその背景となる理論の理解
- ②力動的心理療法と他の心理療法との相違
- ③「事例検討」とは
- ④「見立て」について
- ⑤「面接過程」について

■在宅学修15のポイント

	テーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	臨床心理学とは何を学ぶ学問なのか	臨床心理学における心理アセスメントと心理療法	臨床心理学とはどのような学問なのか、臨床心理学全体について理解できるよう学びます。

	テーマ(テキスト関連章)	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
2	心理療法の目的と技法を学ぶ①	各種心理療法の目的と技法	クライアント中心療法、認知行動療法などについて学びます。
3	心理療法の目的と技法を学ぶ②	各種心理療法の目的と技法	森田療法、内観療法、遊戯療法、箱庭療法を学びます。
4	心理療法の目的と技法を学ぶ③	各種心理療法の目的と技法	集団精神療法、サポーターティブ・サイコセラピーを学びます。
5	力動的心理療法とは(人格心理学と関連付けて①)	力動的心理療法における人格理論(イド・自我・超自我)	力動的心理療法の人格構造の理解を深めます。
6	力動的心理療法とは(人格心理学と関連付けて②)	力動的心理療法における人格理論(防衛機制等)	力動的心理療法の防衛機制の理解を深めます。
7	力動的心理療法の専門性と特徴①	力動的心理療法の特徴	力動的心理療法の持つ特徴について学びます。
8	力動的心理療法の専門性と特徴②	力動的心理療法と他の心理療法	力動的心理療法と他の心理療法のどこに相違点があるか、その特徴を学びます。
9	力動的心理療法からの症状・問題行動の理解①	症状を人格理論から理解する	症状を力動的心理療法の人格理論の視点から理解を深めます。
10	力動的心理療法からの症状・問題行動の理解②	問題行動等を人格理論から理解する	問題行動等を力動的心理療法の人格理論から理解を深めます。
11	力動的心理療法「見立て」の理解①	専門用語としての「見立て」とは何か	力動的心理療法の立場から「見立て」とは何かについて学びます。
12	力動的心理療法「見立て」の理解②	専門用語としての「見立て」を理解する ー面接の目標ー	力動的心理療法の立場から「見立て」の立て方について学びます。
13	力動的心理療法の面接過程の理解①	面接過程での面接者とクライアントの関係 ー転移・逆転移ー	面接過程で、面接者とクライアントの関係は、力動的にどのような関係なのかを学びます。
14	力動的心理療法の面接過程の理解②	面接過程における抵抗と防衛機制	面接過程では、心理的に何が生じているのか学びます。
15	力動的心理療法の面接過程の理解③	面接過程での面接者の役割 ー解釈ー	面接者の役割について学びます。

■レポート課題

課題 1	下記の参考文献「ベシク・フロイト」のなかで取り上げられているフロイトの考えについて1つとりあげて、それについて論述してください。その際には、この参考文献だけではなく、必ず他の文献も読んでレポートを書いてください。また、文献のどの考えを取り上げたのかを明示してください。また、具体的例を自分の体験や、他者の体験でも良いので1つあげて論述してください。
課題 2	丸田(1986)の参考文献の事例を、力動的心理療法の立場から、「見立て」と面接過程を事例検討してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス



理論について、自分の日常生活においてどのようなときに見られるか、またその理論について、自分なりの言葉で他者にもわかりやすく平易な言葉で説明できることを心掛けてください。



事例の過程を単に要約するのではなく、理論に基づく根拠を元に事例の「見立て」を行い、その「見立て」に基づき面接でどのようなことが起こっているのかについて考察してください。

■評価の方法・基準

課題レポート（各35%）、試験レポート（30%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- * 1) 丸田俊彦 1986 『サイコセラピー練習帳』 岩崎学術出版社
- * 2) 竹内健二著 2021 『100のワークで学ぶカウンセリングの見立てと方針』 創元社
- * 3) マイケル・カーン著 妙木浩之監訳 2017 『ベーシック・フロイト』 岩崎学術出版社
- 4) 妙木浩之 2000 『フロイト入門』 ちくま書房
- 5) 鈴木昌 1999 『フロイトからユングへ』 日本放送出版協会
- 6) 河合隼雄 1967 『ユング心理学入門』 培風館
- 7) 鈴木龍監訳 2013 『まんがサイコセラピーのお話』 金剛出版
- 8) 秋田恭子訳 2011 『サポーターティブ・サイコセラピー入門』 岩崎学術出版社
- 9) 福本修監訳 2013 『フロイトを読む 一年代順に紐解くフロイト著作』 岩崎学術出版社